

# 保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2014年  
12月1日(月)  
第121号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

## 東京自治労連 「保育を楽しむための連続講座」に68人 「辞めたいと考えていたが、光が差し込んだ」「す ごくすごく良かった」など感想多数



包まれました。

この講座を受け、少人数に分かれてグループ交流を行いました。講座の感想と「保育を楽しめているか」というテーマでそれぞれ話をしました。高橋さんのお話を聞き、保育を楽しむためには自分も楽しむことが大切だと気付かされた、もっとやわらかい頭で保育を楽しみたい、明日からの保育や子どもに対する心構えを変えていきたいという感想がありました。保育を楽しめているかというテーマでは、まだ経験年数が浅くて保育を楽しむ余裕がでない、複数担任で人間関係の難しさを感じているなど今感じている悩みや考えていることを出し合いました。同じ悩みを持っていたり、経験からアドバイスをし合ったり、とてもよい機会になったようです。

次回の連続講座は12月15日にラパスホールで「人間関係」をテーマに元公立保育園園長の柿田雅子さんを講師に呼んで行う予定です。

### 【アンケートのいくつかを紹介します】

**女性・20代・保育歴2年目**「この何日か本当に辞めたいと考えていたところだったので、そんな中に光が差し込んだ気がします。今までは何かやらなきゃと追われていたばかりでしたが、自分が楽しめること、子どもと一緒に楽しいことを見つけていけたらいいなと思いました。本当にありがとうございました」

**女性・20代・保育歴1年目**「すごくすごく、良かったです。来てよかったです。なりたい自分、め

11月17日にラパスホールで第一回保育を楽しむための連続講座を行い、68名の参加がありました。この連続講座を行うにあたり、若手の保育士たちが中心となり運営委員会を結成しました。運営委員会では、今悩んでいることや気になることを出し合い、講座の内容、テーマ、講師などを話し合いました。

第一回目は墨田区の保育士、高橋光幸さんが「保育を楽しもう」をテーマにお話ししてくださいました。たくさんの保育実践を話していただき、子どもたちとのやりとり、保育内容などどれも楽しいものばかりで、会場は笑いに



ざすべき自分がみえました」

**女性・20代・保育歴2年目**「”保育を楽しむ”みなさんの話を聞いて、やっぱり大人が心から楽しいと思えないと子どももついてこないと思いました。高橋先生の生き生きと子どもたち話をしているのも見て、聞いて、私もこんな風に自分の保育や子どもたちのことを話せる保育士になりたいと思います。今日はこのような機会を頂き、ありがとうございました」

**女性・20代・保育歴3年目**「グループ交流で、同じ悩みをもっている方々が、他にもたくさんいるのだと知りました。同じグループの中のベテラン保育士の意見や考え方が勉強になりました」

**女性・20代・保育歴6年目**「”保育を楽しむ”というテーマを聞いたとき、正直ドキッとしました。毎日の保育をこなすこと、子どもを安全に保育することに意識が向いていたからです。『子どもを深く愛し、子どもの願いを聞き取ってその実現をめざす』明日から心にとめて、実践していこうと思います」

**女性・20代・保育歴2年目**「高橋先生のお話、とても興味深く聞かせていただきました。子どもの行動の裏にある心理を理解するところに見える保育のすばらしさを改めて思いました」

**女性・20代・保育歴3年目**「講義、とても面白くて、楽しむことのアイディアどんどん湧いてきました」

## 足立「10・19 保育新制度について考えるつどい」に100人の参加

10月19日、足立の保育を考える会、保育所つくってネットワーク主催の「保育制度について考える集い」が催されました。認可保育園の園長、保育士、認証保育園園長、小学校の教師、学童保育室の指導員、認証保育園に預けている父母、育休中で来年預けたい母親など、100名弱の参加者がありました。

「子ども・子育て支援新制度で保育園はどうなるの？ 子ども・保護者のねがいに応える保育園、保育制度とは」と題して、全国保育団体連絡会の実方伸子さんによる講演がありました。今までは自治体が責任を負っていたが、施設、事業所にまかせられる。認定を受け、直接契約をし財政支援として給付制度になること等をくわしくわかりやすく話をいただきました。また、今後懸念される内容などもわかりやすく話していただきました。

新制度を少しでも良いものにするために、自治体に向けて要望を伝え保育所保育の拡充に向け、すべての子どもの発達を保障する制度、条件にするようにしましよと訴えられました。

また、公立保育園の保育士、認証保育園の園長からは、現在の状況が話されました。

フロアからの質疑応答も認証保育園に入っている人の加点がなくなると大変、短時間と長時間はどちらが有利か?など切実な質問がだされました。

最後に「保育を考える会」代表の中野けいこさんより、すべての施設が一線上に並びます。子どもたちのおかれる環境（園庭有り、なし、ビルの中）、保育士の資格（全員有り、6割で良い、なくてもよい）、食事（自営方式、外部搬入でもよい）こんなに差があっても一線上に並ぶなんて、誰が考えてもおかしい。皆さんと一緒に区役所に行ったり、異議申立てをしたり、悩みを相談しあったりして、皆さんと子どもたちの健やかな成長を願って、より良い制度にしていくために声をあげて行きましようと呼びかけられました。

**【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】**